

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。  
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (270)

## 栂

お父さんとの散歩から帰るなり、辞書を引いていたタモツ君が叫びました。

「お父さん、すごいよ。シキミって、マントヒヒみたいな字を書くんだよ！」

「マントヒヒ？」

「うん。キヘンにニンベンにドルみたいな字。」

「ニンベンにドル？ ああ、これは5年で教わる<sup>ほとけ</sup>仏という字の元の字。」

「これ、仏って字なの？ シキミって、枝を仏様に供える木なんだって。だから、キヘンに佛って字なんだね。」

「知らなかったなあ。キヘンに密のほうは、見たことがあるけど……。」

「そうか。神様に供えるサカキの枝のサカキって、キヘンに神だったでしょ。シキミは、仏様に供える木の枝の木だから、キヘンに佛なんだよ。」



神様に供える木 = 栂<sup>さかき</sup>



仏様に供える木 = 栂<sup>しきみ</sup>



【編集部注】お父さんが見たという「栂」は漢字、タモツ君の推測どおり、「栂」は日本で造った国字です。なお、シキミの実は猛毒なので、「悪しき実」の「ア」の省略された「シキミ」が名になったのかともいわれています。なお、タモツ君がマントヒヒみたいな字と言ったのは、ヒヒが狒狒と書かれるからでしょう。